

第9回 留学生里親・里子だより

●「留学生さとおやの会事務局」 〒540-0003 大阪市中央区森ノ宮中央1-6-20 (株)サクラクレパス内
TEL: (06) 6910-8800 FAX: (06) 6910-8837

2008年9月発行

2008年対面の会

今年の留学生さとおやの会対面の会は7月5日(土)大阪商工会議所で行われ、今回は33人の留学生に里親の組み合わせを実施しました。里親の田仲さんの司会で開会、西村代表幹事の挨拶の後、来賓の大阪商工会議所理事、国際部長の上月康嗣様よりお言葉を頂戴しました。その後待ちに待っ

た対面式。司会の田仲さんが里親の名前を読み上げ、アシスタントの何玉琴さんが里子の名前を読み上げるという絶妙のコンビネーションです。対面式の後はそれぞれの親子で懇談会を持ち、賑やかに和やかな中、終了する事ができました。



感動した一日

何 玉琴

この日は、私が二回目で里親と里子の対面会に参加することでした。私はとても感動しました。去年のこの頃、偶然で私は里親と里子の対面会の司会アシスタントになりました。神様のご褒美か、縁の結びといえば、私と司会の田仲さんと出会って、さらに里親と里子になりました。今年、私はまた司会のアシスタントとしてこの盛会に参加することができて、とても光栄に存じました。

今年の対面会の規模は去年より大きくなりました。始めの時、里親と里子お互いに合って、一緒に記念写真を取って、そして一緒に話したり、笑ったり、とても楽しかった時間を過ごしました。そして、私は今年の里子の中の一人、邵さんと話しました。邵さんよりも、私は、里親と初対面の瞬間とても緊張しました。話すときも同じように緊張しました。原因は自分の日本語はそんなに上

手ではないからで、里親はとても親切にしてくれて、とても感謝しました。

私は里子の代表として、この架け橋を作った先生達、友好的な人たちにとても感謝しました。我々留学生のためにいろいろしてくれて、心から感謝しました。

この日はとても感動した一日を過ごしました。



—里親になって—

東條由香里



素晴らしい出会いの機会を与えて頂きまして、本当にありがとうございます。

初めてこの会に参加させて頂いた時、最初の里子さんが決まるまで、わくわくドキドキしながら待っていました。初めての里子さんは10代の韓国の女の子でした。背が高くとてもかわいらしいソニーさん。当時30代の終わりで子供のいない私にとって宝の様な存在になりました。彼女の学校のお友達も一緒に天神祭りへ行ったり、一緒にお買い物に行ったり楽しい思い出が一杯できました。特にお店で、「娘さんにはこれがお似合いですね。」と言われた時には本当の親子に見えるんだ！と胸に熱いものが込

み上げてきました。彼女が大学受験前に猛勉強をしながら不安と期待で一杯の時期も、大学に受かった時も、一緒に心配したり喜んだり、何もかも初めての経験でした。外国で大学受験なんてどんなに大変だったでしょう。こんなに若くてかわいい子が頑張っているのを知って、私も大きな勇気をもらいました。

大した事は出来ませんが、留学生さん達の青春の一齣にちょこっと参加させてもらって、楽しい思い出作りのお手伝いが出来たらと思います。外国で生活し、勉強する事は苦勞の連続だと思いますが、留学生さん達の日本での思い出が素晴らしい物になります様に。



—再発見—

中村真理



さとおやの会に入会させていただいてまだ2年。まだまだ四人の子育て真っ最中で、なかなか里子の方との交流もままならない状態です。主人が中国、長男長女がシンガポールに留学経験があり、それぞれ現地の方々に色々お世話になりました。母国・家族と離れて勉強する留学生のお手伝いが少しでもできたらと思っています。

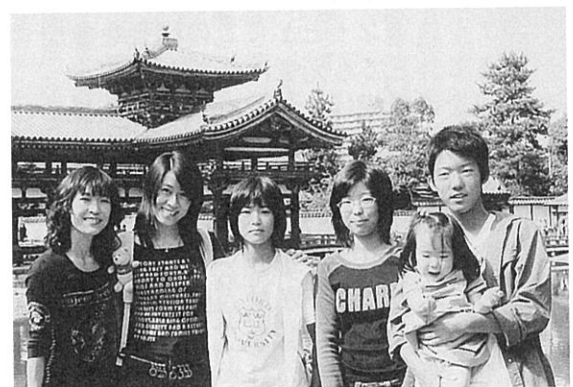
留学生の勉学に対する姿勢や、他国の人と積極的にかかわろうとしている姿を見習って欲しいと思うとともに、日本を学び、説明できるようになって欲しいと思います。

まだまだ駆け出しのさとおやですが、留学生と共に私たちも勉強する機会を持ち、交流できる事を楽しんでいます。今はまだ、帰国した留学生との交流ができていない事が残念ですが、再会できる日を楽しみにしています。

この2年間、5名の中国からの留学生の方と知り合う事ができました。まず驚いた事には、会話に困る事のないぐらい日本語を習得されている事です。初めての対面の会では、言葉の面で不安がありましたが、今では新しい留学生との出会いを楽しみにしています。留学生とは食事をしたり、能・狂言などの伝統芸術と一緒に観に行ったりしましたが、その度に母国のことについての自分自身の勉強の足りなさを痛感します。改めて、日本の歴史・文化の深さを感じたりもします。



我が家の子供たちには、



2007年9月10日から、日本のお母さんと3泊4日の北海道旅行に出かけました。来日以来ゆっくりと旅行するのは初めてのことなので出発前からとてもウキウキ、楽しみにしていました。9月の北海道は大阪に比べ涼しくて、寒い朝もあり驚きましたが、札幌、小樽、ニセコ、旭川等回りました、話題の旭川動物園は予想していたとおり面白かったので、集合時間を間違え時間に遅れたために、ツアーの人達にご迷惑をかけてしまいました。お母さんと私は、次のツアー停車、下車するとき、一番先に降りて一人一人、全部の人に謝りました。皆さんはと

ても優しくて「気にしなくていいよ」とか「ご丁寧に、どうも」と笑顔で答えて下さったので、ホッとすると同時にお母さんの行動をみて、とても勉強になりました。ツアーの人達と温泉の大浴場に入ったこと、名物料理の美味しい食事、あつという間に過ぎた4日間は本当に楽しかったです。四回生になり忙しくなりますが卒業に向けて尚頑張りたいと思います。日本に来て里親さんに出会えて幸せでした。



里親と出会ってから、もう10年も経ちました。1998年、私は大阪商工会議所の紹介で園原さん夫婦の里子になりました。最初はとても不安で、話すことすら気を使っていました。その後何度も園原家に遊びに行きました。お父さんとお母さんはいつも日本での生活や進学などの相談に乗ってくれました。

神戸大学大学院合格の時、里親は学校の保証人までなってくれました。日本での友人も親戚もない私にとっては、それが本当にありがたいことです。もし、その時学校の保証人がないと、帰国せざるを得ないかもしれません。

お父さんとお母さんは家族の一員として認めてくれました。日本での五年間、家族のイベントには必ず誘ってくれました。私も里親にあまえて、園原家の娘として、お正月、温泉旅行、花見、墓参り、お爺ちゃんの葬式まで参加させていただきました。そのお陰で、私は日本人の生活行事をよく体験しました。

帰国後、里親は4回台湾を訪ねてきました。会う度には自分の家族と会うようにうれしくてたまりません。里親は私の結婚式にも参加

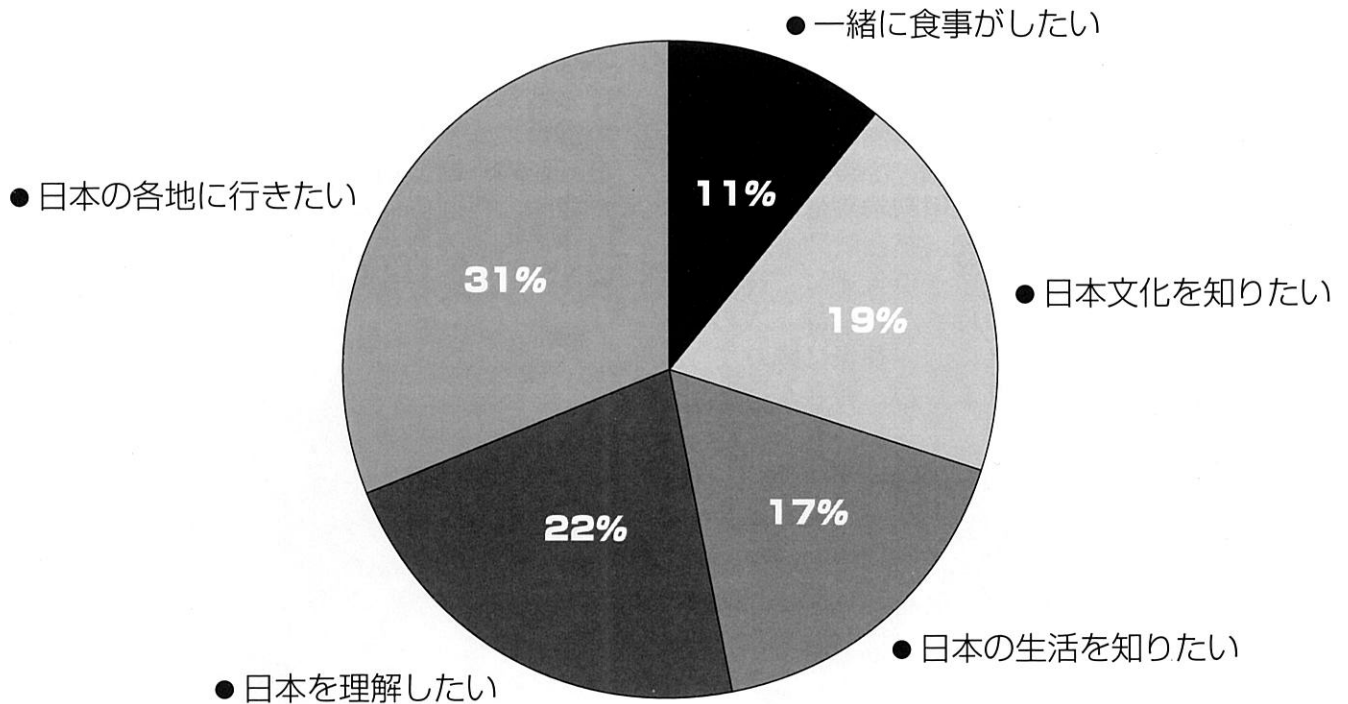
してくれました。お母さんの手づくりのブーケを持って、結婚会場に入るのは、本当に感動でした。実の母親が亡くなった私にとっては園原お母さんの存在は大きいです。そして心から感謝しています。

日本で在学、仕事の五年間、たくさんの人と出会ったり、いろいろなことを経験しました。私は現在一人娘の母親です。娘が大きくなったら、日本へ留学することを薦めます。園原家族との縁を永遠に続けていこうと思います。



対面の会 アンケート結果

〈留学生〉



対面の会で交流について、参加留学生、里親にアンケートを取りました。里親からは留学生に対して日本の文化を知って欲しい、体験して欲しいという願いが寄せられました。留学生からはたくさん話をして、日本の生活を知り、日本を理解したい、という想いがたくさんありました。

これらの結果を参考にいただければ、これからの交流が楽しく、お互いの文化を理解できる有意義な交流になるのではないのでしょうか？この出逢いが素晴らしい交流になりますことをお祈りしています。

●編集後記●

編集局長 田間貞雄

留学生さとおやの会の「里親・里子だより」の第九回発行の原稿を里親・里子の方々からお寄せいただきまして有難うございました。

振り返りますと第一回の発行は二〇〇四年三月で、早くも四年の月日がたち第九回の発行となりました。第一回発行の編集後記に「希望としまして年に二・三回の発行を考えております」と記していましたが、皆様のおかげで近年は実現しております。

第八回の「里親・里子だより」の発行以後の行事で最も感動したことは、七月五日（土）の「対面の会」で、里親と留学生との新しいドラマが生まれていました。

「留学生里親・里子の会」が発展し里親も里子の人数も大勢になってきましたのも、里親の皆様の献身的なボランティア精神の努力と、さくらクレパスの西村会長を中心として各幹事の皆様のご尽力によるものと感謝いたします。

また里子の皆様のご協力のおかげでもございます。これから第十回の「里親・里子だより」の発行に向けて、里親や里子の皆様から沢山の原稿やお写真、そして有意義なアドバイスやトピックスなどをお寄せいただけますようお願い致します。

里親と留学生の絆は何時までも続き、終わることはありません。会報を通じてこの事業が広く地域の皆様にご理解を頂くために努力したいと考えています。

新幹事に星雅啓氏（生駒在住）が居られました。星氏は現在二名の里子が居られます。ご活躍を期待しています。